

航跡

高い開発力で炭から「環境の専門家」へ

(トランスアクト)技術や販売は外部企業に委託も二十を超え、開発力の1企業自利き委員会のAを開設して、会社を設立。常温転写自体が同社積極的にすすめるなどし、大学との共同実験を高きから京都市ベンチャーリンク認定を受ける。

路面へのデザインの転写や、化学物質を吸着する炭素材の開発…。滋賀県大津市に本社を置く大木工業は「環境」をキーワードにアイデアを提案し続けている。

その源は、岡山・吉備高原の自然のなかで過ごした大木武彦社長の原体験。「次世代に負の遺産が残るモノ作りではメーカーの責任が全うできない」と熱っぽく語る。

約十年前、歩道や壁面に精巧な絵や文字、点字までも転写する常温転写

度で蒸し焼きし、多孔質の炭化素材を作ること成功した。化学汚染物質の吸着分解や電磁波の遮蔽などに優れ、水質浄化など幅広い応用が期待されている。

開発・提案型の事業は資金余力のある大手が得意だが、同社では営業

大木工業

- 【本社】 滋賀県大津市上田上中野町256
- 【資本金】 4000万円
- 【社長】 大木武彦氏
- 【設立】 平成7年10月
- 【売上高】 1億3000万円 (平成12年9月期)
- 【社員】 13人



「これまで炭を深く狭く追求してきたが、これからはそれをどう応用するか、研究を横に広げていく」と話す大木社長が注目する最新の研究課題は環境ホルモン分解作用をもつ「キノコ」。

ヒントとなったのは、大木社長が子供のころに見た炭焼き小屋の光景だった。新開発した炭化素材でキノコを栽培し、ダイオキシンの汚染された土壌の浄化実験でも実績を上げつつある。「炭の専門家」から、目標の「環境の専門家」に一步步近づいている。

(山田桂子)

大木工業が開発・研究中の炭を活用したダイオキシンの分解キノコの栽培システム